令和２年度

南大原遺跡　発掘調査情報（2）

２年間大変お世話になりました。

昨年4月から実施した南大原遺跡の発掘作業も、この9月をもちまして全て終了いたしました。

昨年 10 月には台風 19 号の影響で調査が一時中断するなど予想外の状況もありましたが、地域の皆様には日頃からご理解ご協力をいただき、無事終了することができました。改めてお礼申し上げます。

今後は地域の歴史遺産を未来に継承できるよう、出土品の整理分析と調査成果をまとめる作業を進めてまいります。

千曲川と共に生きた弥生人

調査区を善光寺平方面から見ると、左に現在の千曲川の流れ、右に明治時代以前の旧千曲川の痕跡がはっきりとわかります。弥生時代の人々が暮らした二千年前、この一帯はどのような環境だったのでしょうか。

堆積学による遺跡環境の復元

今回、遺跡環境を復元するため、土壌堆積学を専門とする信州大学理学部の研究室に調査をお願いしました。住居跡内に堆積した土や遺跡が立地する基盤層だけでなく、昨年の台風 19 号で堆積した洪水砂も土壌サンプルとして採取されました。その分析によって千曲川べりに暮らした弥生人の生活環境を解明することが期待されます。

発掘ゲンバってなんだ？

うだるような暑さが続く夏の午後、地元の中野市立豊井小学校6年生が元気に訪ねてくれました。「本物の土器に触れるのはきっと一生に一度の機会。校長先生もきっと今日初めて触るはずだよ」と話しかけると、皆「えー！」。順番に恐る恐る土器を触ってみて、「弥生土器は薄くてザラザラしてる」、「持ってみると思ったより軽いよ」と色んな声が聞こえてきます。校長先生も優しく頷かれていました。

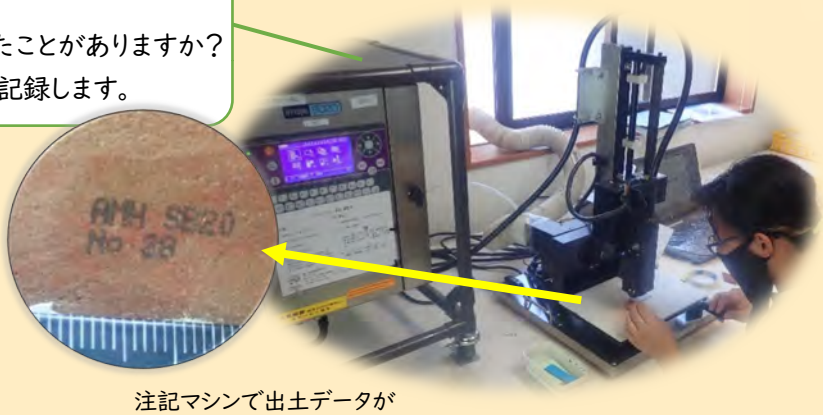
発掘現場でしか味わえないワクワク、ドキドキする“生の歴史”を感じてくれたようでした。

歴史遺産を未来に残すために　～整理室より～

遺跡から出土した貴重な資料は、長野市にある整理室に運び、整理と分析を行って、南大原遺跡という歴史遺産を未来に継承するための調査報告書を作成しています。これからの仕事を紹介します。

一つひとつ、記録化する

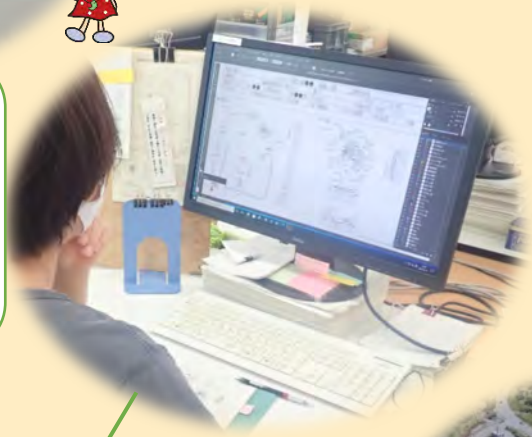
ペットボトルなどにある賞味期限の印字を見たことがありますか？それと同じ方法で土器１点１点に出土データを記録します。



注記マシンで出土データが
印字されます。

土器に残された情報を読み取る

土器の表面に描かれた文様を寸分違わない精度で図面に起こします。こうして作成された実測図は全国各地で出土した土器と比較検討する大切なデータとなります。



調査記録や成果を１冊に

発掘現場と整理室で蓄積された遺跡の記録と成果を、皆さまにご覧いただけるように調査報告書を刊行します。現地には残せない遺跡の記録となる報告書もまた、大切な歴史遺産の一つです。

遺跡の痕跡を図上に復元する

PCを用いて現場の記録を合成していきます。するとモニター上には建物跡や墓跡といった、二千年前の弥生人たちが大地に刻んだ生活の痕跡が浮かび上がってきます。

先人の生き方を共有する

出土品は博物館等で大切に展示保管されます。現在もセンター展示室で代表的な出土品や写真パネルを展示しています。土器や石器は先人たちが我われ現代人と同じ大地に生きた証しです。

埋文ナビゲーター
かがみちゃん

南大原遺跡調査速報　令和２年度 第２号（通巻５号）
長野県埋蔵文化財センター　TEL：026－293－5926　HP：http://naganomaibun.or.jp/
（担当者：:柳澤・鶴田）　発行日：令和２年９月25日